



祖母のご飯の秘密

桐生市立新里中学校 2年 小川 綾加

私は祖母のたくご飯が大好きだ。いつも家で食べるご飯よりもなんだか特別でおいしく感じる。なんでこんなにおいしいのだろう、小さい頃、疑問に思った私は祖母に直接きいてみることにした。

「なんでおばあちゃんのたくご飯はこんなにおいしいの？コツがあるの？」

そう聞いても祖母はよくわからないいらしかった。それから少し考えて、

「お米一粒一粒を大事にするんだよ。」

とこたえてくれた。その頃はそうなんだ、としか思わなかったが、今ではご飯を食べるとき、いつもこの言葉を思い出している。

現在、日本では米の消費量が減少していることが問題となっている。それは日本人の食生活の欧米化が進んでいることが原因の一つだ。お米を食べる気分ではないから、パンや麺類を食べたり、昔の日本のように、米を食べることがあたり前だ、という時代ではないため、みんな好きなものをあたり前のように食べている。それは一見、とてもすばらしく便利に見えるが、そんな現在の日本人の生活が日本の農家に大きな打撃を与えているのだ。

私の祖母の生きた時代、それはぜいたくは敵だ、などといわれ、たくさんの死者が出た「戦争」が起きていた時代である。そのころの日本は、食生活の制限がとても厳しく、いもやドングリ、野菜の葉やつるなども食べていたそうだ。そして日本の象徴と言っても過言ではないお米は、配給で決められた量だけ食べられたが、とても量が少なく、満足には食べることができなかったと聞いた。それらを知って私は思った。今の生活はとてもめぐまれていて、ぜいたくなのだな、と。普段はなんとなく自分の好きなものを食べ、特に何も考えずに肉や野菜、そしてお米を食べている。しかし、それは普通のことではない。祖母に言われた一粒一粒を大事に、という言葉。口では簡単に言うことができるが、私は本当にそう思う心が大切だと思う。祖母は心からそう思っていたからこそ、祖母のたくご飯はあんなにもおいしかったのだろう。

毎日学校で出る給食。出ることがあたり前になってしまっている今では、残すこともあたり前になってしまっている。特にお米についてはそう思うことがとても多い。食べ終わったと言っているのにお茶わんの内側にたくさんのご飯つぶがついている人だってたくさんいる。私も時間がないときは、一粒一粒大事に、という言葉をおぼえて、ご飯つぶだらけなのに残してしまうこともある。私をふくめてこのような人がたくさんいると思うと、なんだかとても悲しいし、申し訳ない。

祖母に言われたあの一言で私の考え方は大きく変わった。現在の日本は様々なものが進化し、とても便利になっている。そんな状態にあるからこそ、今を生きている私たちが悪い方向に進めてしまてはいけない。お米を大切に作る、という心がけで世界がすぐによくなるかはわからない。しかし、一人一人が意識すればきっと一歩一歩良い方向へと進んでいくはずだ。これからも食事をするときには、一粒一粒を大事に、ということをおぼえないようにしようと思う。そして、祖母のようにおいしいご飯をたけるようになりたい。